

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	経営組織論		授業コード	E013201
担当教員名	奥田 憲昭			
配当学年	2年生以上	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2.0	
履修上の注意または履修条件				
受講心得	講義をよく聞くとともに、教科書を用いて予習・復習を行い、なんども反復学習を行うこと。私語は禁止する。			
教科書	現代経営組織論の基礎 佐久間信夫・坪井純一編著(学文社)			
参考文献及び指定図書	松崎和久編著(2006)『現代組織』(マネジメント基本全集9)学文社、岸田民樹『現代経営組織論』有斐閣			
関連科目	企業形態論、中小企業論			

授業の目的	経営組織の基本から組織論の生成と発展、組織論の近年の動向を理解することを目的とする。
授業の概要	教科書として『現代経営組織論の基礎』を用いて授業を行う。授業内容は、I部:組織の基本、II部:組織論の生成と発展、III部:組織論の分化と深化、IV部:組織論の新しい動向となっている。成績は、出席、中間試験、期末試験で評価する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: 集団と組織	予習: 必要なし 復習: 授業で作成したノートで復習する
1. 企業の集团的性格、2. B企業の組織、3. S企業の組織について学修する。	
第2週: 経営組織の基本概念	予習: 教科書第1章2頁～15頁 を讀んでおく。復習: 繰り返し教科書を読む。
1. 人間と組織、2. 組織の近代化と現代化、3. 組織の概念、4. 組織における個人、5. 経営形態の発展について学修する。	
第3週: 経営組織の基本形態	予習: 教科書第2章16頁～31 頁を讀んでおく。復習: 繰り返し教科書を読む。
1. 経営組織の基本設計(①職能別組織、②事業部制組織)、2. 進化した経営組織(①マトリクス組織、②フロント・バック組織)、3. 国際的な経営組織、(①地域別事業部制組織、②地域統括本社制)について学修する。	
第4週: 人間関係論と組織論	予習: 教科書第3章34頁～46頁 を讀んでおく。復習: 繰り返し教科書を読む。
1. ホーソン実験と人間関係論、2. レスリスパーガーの人間関係論、3. ヴェーバーの組織論について学修する。	
第5週: ヴェーバーの組織論について	予習: 教科書第4章47頁～60 頁を讀んでおく。復習: 繰り返し教科書を読む。
1. 近代官僚制の特徴、2. 近代官僚制成立の基礎、3. 支配の3類型と官僚制について学修する。	
第6週: バーナードの組織論	予習: 教科書第6章74頁～86 86頁を讀んでおく。復習: 繰り返し教科書を読む。
1. 協働体系、2. 公式組織、3. 誘因と説得の方法、4. 権限受容説などについて学修する。	
第7週: 行動科学的組織論	予習: 教科書第106頁～120頁 を讀んでおく。復習: 繰り返し教科書を読む。
1. 行動科学の誕生、2. カージリスの組織論、3. リッカートの組織論について学修する。	
第8週: 中間試験	試験勉強をすること
第1週から第7週までの範囲で試験を実施する。	
第9週: 動機づけ理論	予習: 教科書第9章122頁～ 135頁を讀んでおく。復習: 繰り返し教科書を読む。
1. マズローの欲求段階理論、2. アルダーファのERG理論、3. マグレガーのX理論・Y理論、ハーズバーガーの動機づけ理論等を学修する。	
第10週: リーダーシップ論	予習: 教科書第10章136頁～ 151頁を讀んでおく。復習: もう一度教科書を繰り返し読む。
1. リーダーシップとはなにか、2. リーダーシップの交換理論と認知的アプローチ、3. 変革的リーダーシップ論等を学修する。	
第11週: 組織文化論	予習: 教科書第10章166頁～

1. 組織文化とは、2. 組織文化としての日本的経営論、3. 日本的経営の特色、4. 日本的経営の変化について学修する。		170頁を読んでおく。復習：講義ノートを見直す。
第12週：組織変革論		予習：配布されたプリントを読んでおく。復習：プリントを繰り返し読む。
1. 組織変革とイノベーション、2. 組織変革の背景、3. 組織変革の阻害要因と促進要因、4. 組織変革の実践的方法について学修する		
第13週：コーポレート・ガバナンス論		予習：教科書第16章225頁
1. 株式会社の機関設計の多様化、2. 監査役会設置会社、3. 取締役会の問題点と改革等について学修する。		240頁を読んでおく。復習：繰り返し教科書を読む。
第14週：社会的企業論		予習：教科書第17章241頁
1. 社会的企業とはなにか、2. 社会的企業の組織形態、3. 社会的企業の事例、4. ソーシャル・アントレプレナーの役割について学修する。		253頁を読んでおく。復習：繰り返し教科書を読む。
第15週：試験について解説		第9週から第14週まで復習しておくこと。
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教科書で予習をし、講義をよく聞き、復習をする。
【知識・理解】	講義で取り上げた内容を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	講義を基によく思考しする。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	40点			
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	出席・中間試験・期末試験で総合的に評価する。
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	